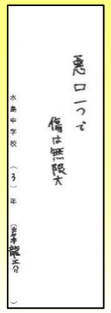
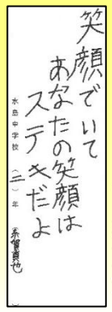
人権標語・ポスター

水島中学校

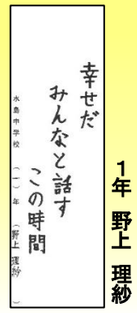
3年 早川 映月



3年 岩本 龍之介



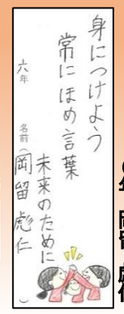
2年 糸賀 真也



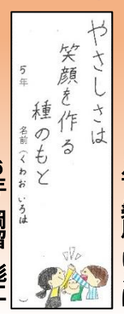
1年 野上 理紗

水島小学校

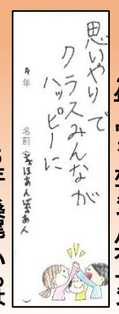
2年 椿 蓮



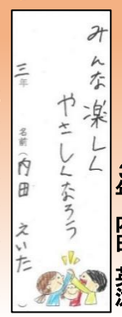
6年 岡留 彪仁



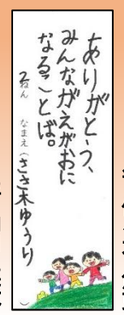
5年 桑尾 いろは



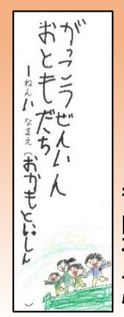
4年 ヴォ ホアン バオ アン



3年 内田 英汰



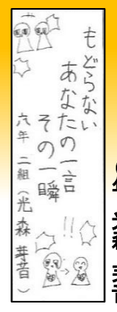
2年 佐々木 悠吏



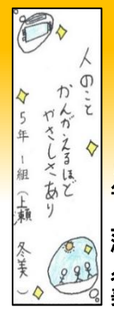
1年 岡本 一心

第四福田小学校

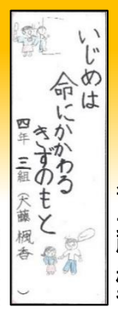
6年 村上 月麦



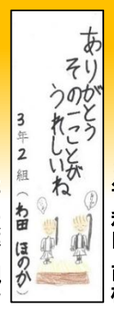
6年 光森 芽音



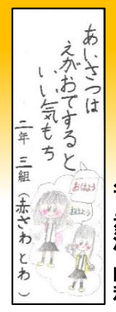
5年 上瀬 冬美



4年 大藤 楓香



3年 和田 萌楓

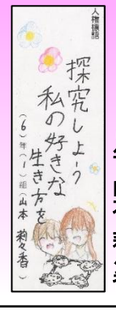


2年 赤澤 叶和

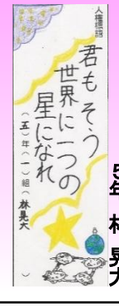
1年 大上 銀也

第五福田小学校

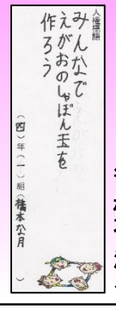
2年 高山 和士



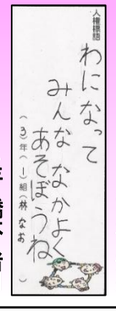
6年 山本 莉々香



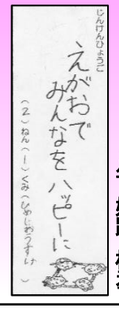
5年 林 晃大



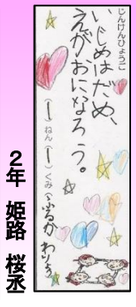
4年 橋本 渚月



3年 林 奈央



2年 姫路 桜丞



1年 古川 凌

各学校より提出していただいた児童生徒さんの作品は、61号と62号（次号）に分けて掲載します。

人権が尊重され、みんなが住みやすい明るい社会を築こう

ひまわり

第61号
令和7年11月1日

発行:水島中学校区人権学習推進委員会　事務局:倉敷市水島公民館(倉敷市水島北幸町1-2　☎086-444-2541)

水島中学校区人権学習推進委員会総会

令和7年5月31日

中学校区テーマ「 さがそうよ　みんなの心を　つなぐかぎ 」

今年度は、十名の方に新たに推進委員会に加わっていただき、総会が開かれました。令和六年度の事業報告・決算報告に続いて、今年度の計画について話し合いました。今年度の中学校区の活動のテーマは「さがそうよ　みんなの心をつなぐかぎ」重点目標は、「子ども・高齢者の人権、地域や先人に学ぶ」です。推進委員が中心となって活動の輪を広げていくことを確認しました。

協議の前には、「ハンセン病」について研修の時間をもちました。今年度の行事計画でも説明しましたが、十月に長島愛生園へ研修視察に行く予定にしています。今回の研修をきっかけにして、より多くの方にハンセン病患者の方々がたどった苦難の歴史について関心をもち、実り多い研修視察にしていただければと思います。会長の開会のあいさつにもあったように一人の百歩より百人の一歩一歩の前進を着実に進めていきたいと思います。

令和7年度　水島中学校区人権学習推進委員

○印は新任

会長　岡　浩一
顧問　遠部　壽美江
副会長　武中　英治
　　森田　奈津子
　　赤澤　信治
監査　平松　智子
　　田中　美代子
推進委員　丹谷　豊
　　廣政　静恵
○正清　省三
　　原　郁美
　　星尾　惠子
○原田　善彦
　　田野　美佐
　　浅野　末子
　　野呂　家徳
　　水城　弘之
○田平　幸治
　　大内　佐予子
○辻本　正枝
○中道　靖彦
　　川本　加世子
○中田　稔里
○藤本　由美
　　神原　彰元
○渡辺　徹
　　林　知佐子
　　佐守　美雪
　　塩崎　幸
　　新納　雅司
　　藤井　剛
○鈴木　宏幸
　　田中　啓嗣
　　高橋　謙司
　　鳥越　龍太郎
　　橋本　正広
○小太刀剛太郎

人権課題　外国人　ふれあい・交流活動　8月2日(土)

「外国文化に触れ合おう」～触れ、学び、体験する　アフリカの料理と文化～

世界最小のパスタ「クスクス」

ハーマン先生とフエン先生

今年度はコートジボワール出身で現在倉敷市立児島中学校の外国人英語講師をされているクトワン・ハーマンさんとチャン・フエンさんをお迎えしました。昨年度に引き続いて水島中学校の生徒7名に参加していただき、推進委員と共に楽しく交流ができました。アフリカの代表的な料理「クスクス」（北アフリカが発祥とされるデュラム小麦を原料とした粒状のパスタ）やクスクスを使ったデザート「デゲ」を参加者で作り試食しました。その後、コートジボワールの歴史や人々の暮らし、文化についてのお話を聞きました。限られた時間でしたが、普段なかなか接することのない「アフリカ」について体験することができ、有意義な交流となりました。

《参加者の感想》　☆は中学生の感想

♡ 想像していた以上にアフリカ料理がアレンジに富んでいて、その上デリケートで香辛料・調味料の多さにびっくりしました。日本から遠い国ですが、今日のお話をお聞きして、とても身近に感じることができました。ありがとうございました。

♡アフリカの料理を初めていただき、スパイスたっぷりで深い味わいでした。ヘルシーさも感じ、中学生と推進委員さんと楽しく会話しながらの料理は、とても良いことで、楽しいふれあいの場でした。

☆クスクスとデゲ、どちらもあまり食べたことがない食感でおいしかったです。今日は、貴重な体験をありがとうございました。アフリカの文化などあまり知らなかったのでとても勉強になりました。

☆コートジボワールの料理を作ったり、話を聞いたりして、コートジボワールはいい国なんだなと思いました。あと、児島のデニムには、コートジボワールの綿が使われていることを知り、今度デニムを買うときに見てみようと思います。

人生を豊かにするこころ学 第1回　6月26日(木)　【人権課題：子ども】

「岡山県立成徳学校」という「児童自立支援施設」 ～こども達との暮らし～

岡山県立成徳学校　校長　寺岡　牧　氏

寺岡校長先生をはじめとする先生方と入所している子どもたちとの日常の交流の様子について具体的な事例も踏まえて教えていただきました。その中で先生方が子どもと同じ目線に立って寄り添う姿勢を大切にする「WITH（ウイズ）の精神」を大切にされていること、三度の食事や充分な睡眠など心配事のない「平穏な暮らし」が何よりも子どもの成長に必要なことなど、強く印象に残りました。私たち自身の暮らしにおいてもより良い人間関係を築くために大切にしていかなければならないことだと思いました。

《参加者の感想》
♡私たちもそうですが、自分の居場所を見つけて安心できるところがあることは、生きて目標を持ち夢や希望を育む基盤になるんだと思いました。
♡ご夫婦の長年の職場での生活、本当に「人を育てる尊いお仕事」に頭が下がります。どんな子どもであっても、その子の尊厳を大切に育ててくださるそんな素晴らしい先生方や学校の存在を知りました。
♡「WITH の精神」とても勉強になりました。「FOR」や「TO」（誰かのために）という思いが自分には強かったと思います。これから子どもとかかわるときは「WITH」を心掛けたいです。

人生を豊かにするこころ学 第2回　7月16日(水)　【人権課題：戦争、中国残留孤児】

「戦後 80 年を振り返って」 ～帰らぬ旧満州国の遺骨～

元岡山大学非常勤講師・近現代史研究家　青木　康嘉　氏

戦時中に「旧満州国」にわたった満蒙開拓団がたどった歴史について、実際に何度も現地での調査を繰り返され、中国残留日本人孤児の方々から聞き取ったことをもとに具体的にお話をしていただきました。中でも、敗戦時に満州の地で命を落とされた人々の遺骨の収集が今なお進まない現状についてこころ熱く語っていただきました。戦争を知る人が少なくなる中、私たちが次の世代に戦争の悲惨さについて伝えていくことの大切さを強く考えさせられました。

《参加者の感想》
♤戦後 80 年、こうして歴史を振り返ることはとても大切だと思う。知らないことも多くためになりました。今後日本がまた戦争に巻き込まれないことを強く望みます。
♡残留孤児の存在は知っていたが、日本へ帰国できた人、帰国できていない遺骨と戦争の悲しい出来事を改めて感じました。平和である今を幸せに思っています。
♤まだまだ知らないことが多いです。戦後 80 年たっていても、遺骨が帰らない関係者の人の苦しさがわかりました。まだまだ時間がかかると思われますが、引き続き続けてほしい。

人生を豊かにするこころ学 第3回　9月5日(金)　【人権課題：女性】

「社会を変える、時代を動かす」 ～そのためには何が必要？～

投稿誌「Wife」編集長　小野　喜美子　氏

歴然としてあった男女の壁や子育てや家事に追われる毎日の中で、出会った投稿誌『Wife』。小野氏は、自分の思いを文章にして書くこと、それを読み返す中で、自分の気持ちに整理をつけ、また、同じような思いをもつ仲間がいることに支えられて、仕事と家事育児の両立を成し遂げられてきました。膨大な情報に振り回される毎日を送っている現代の私たちにとって、ゆっくりと自分の気持ちに向き合いそれを書くことで整理していくそんな素敵なひとときに思いをめぐらせる時間となりました。

《参加者の感想》
♡私のありふれた日常体験でも、心の中でモヤモをためておくのではなく、「書く」というアウトプットをすることが、個性を出すことにつながると思いました。
♡働きながらの子育ては、「母親の笑顔が大事」ということはわかっていても、時間と心に余裕がなかった。そのことを思い出し涙が出ます。書くことの大切さがよくわかりました。
♤自分を見つめ、社会（会社や家庭）を変えようとするエネルギーがすごい。そのための「書く」ということなんですね。これまで生きてきた人生を振り返り、少しでも時代を動かすために頑張りたいと思えたひとときでした。

人 権 コ ラ ム

第四福田小学校
なかよし週間の取り組み

本校では６月に、「クラスの友達となかよくしよう」という目標でなかよし週間を実施しました。ハートのカードに、自分が友達からしてもらって嬉しかったことや、感謝の気持ちをまとめ、掲示をしました。「落ち込んでいるときに、いつも優しく声を掛けてくれてありがとう。」「〇〇さんがどんなことにも積極的に取り組む姿がとてもかっこいいよ！」など、普段、言えない感謝や称揚の気持ちに数多く触れることができ、友達のよさや温かさを感じる良い機会となりました。

また、人権ポスターや標語も作成しました。SNS を活用する際の相手への思いやりの大切さや、生活の中で、何気ない言動で相手を傷つけていないかを問いかける作品など、心に迫る作品も多く見られました。

休み時間には異学年でのなかよし遊びも行いました。学年を超えて、共に過ごす周囲の人を尊重し、互いに思いやることができました。１１月には人権教育懇談会や、第２回目のなかよし週間も予定されています。互いのよさを伝え合い、自尊心を高め、他者に温かく向き合うことができる心を育んでほしいです。

ハートカードの写真

※コメント抜粋
あなたのいいところは
♥いつも笑顔でやさしいところです。
♥準備が早くてすてきです。

水 島 小 学 校
優しい言葉で心のつながりを増やそう

本校では、昨年度から継続して心がハッピーで、にこにこになる言葉を「ハピにこ言葉」として児童に呼びかけています。「ハピにこ言葉」は、相手が嬉しくなる言葉です。６月に行った人権週間では、「ハピにこ言葉の宝箱」の取り組みとして、相手が嬉しくなる「ハピにこ言葉」を考えて宝箱に集めました。「ありがとう」「いいよ」「がんばってるね」などの言葉を宝箱に集めてクラス内で掲示することで、素敵な言葉として児童が意識できるようにしています。

今年度は月末に「ハピにこ週間」を設定し、「ハピにこ言葉の宝箱」で集めた言葉の中から、「今週のハピにこ言葉」を決めて、児童が様々な場面で思いやりのある言葉を使えるようしました。ドッジボールでボールを渡してもらった時に「ありがとう。」と言ったり、休み時間の時にこけてしまった友達には、「大丈夫？」と声をかけたりなど、友達が嬉しくなる言葉を自然に使うことができていました。教師もその場面を見逃さずに認めたり、帰りの会で振り返りの時間を設けたりすることで、継続的に「ハピにこ言葉」を意識できるようにしています。友達が優しくしてくれて嬉しかったことや感謝の気持ちを書いて送る「ハピにこカード」の取り組みもしました。「ハピにこカード」を書いて送ることは、友達のよいところを見付けたり、カードをもらって嬉しい気持ちになったりすることで、すてきな行動を広げていくことにもつながります。

２学期からも、相手が嬉しくなる優しい言葉で、みんなが仲の良い水小っ子を目指していきたいと思います。

人権作文

倉敷市立水島中学校

戦争と平和

3年　秋定　昊心

今年、日本は戦後八十年ということで、テレビで様々な特番が放送されていました。日本は平和になったように見え、戦争の事など忘れたように生活している人が大半ですが、まだまだ過去の戦争で苦しんでいる人がいます。今回、戦争がどれだけむごいものか初めて知ったことがたくさんありました。

私と同じくらいの歳の人たちが特攻隊として命がけで闘い死んでいったこと。生きたくても明日には死なないければいけない究極の状況で母親や家族に残した手紙を見たとき言葉になりませんでした。戦争がなければその人たちは自分の夢を叶えることも、幸せに家族と暮らすこともできたはずです。どれだけ無念だっただろうかと思いました。

戦争は人間と人間の殺し合いで、日本も被害者であるけど加害者でもあるということ。広島の資料館に行って平和学習で、原爆で受けた被害を知ってどれだけ酷い事をしてくれたんだと感じますが、日本人もたくさんの人の命を奪って戦争をしていたんだと改めて思いました。

終戦と言われているけれど、まだまだ苦しんでいる人がたくさんいること。自分が死ぬまで戦争は終わらないと言っていた人がいました。助かって帰って来ても自分だけ生きていて申し訳ないとか、幸せになっていいのかという気持ちと闘い続ける罪の意識や、壮絶な体験をして精神が病んでしまった人、被爆して後遺症に悩まされている人、八十年という長い年月が経っても戦争の残した被害が消えることはないんだと思いました。

戦争の実体験を話せる人が一割しかいなくなったようです。それでも戦争の恐ろしさ、苦しみ、悲しみを忘れてはいけないし、同じ過ちを繰り返さないようにしなければなりません。今でも世界では戦争があちこちで起こっています。たくさんの人が苦しんでいます。戦後八十年間、戦争をしなかったのは国連加盟国百九十三か国のうち日本を含めて八か国だけだそうです。アメリカの兵士が「平和を欲しない人がいるでしょうか」と言っていたことが心に残りました。みんなが、戦っている兵士でさえも平和を願っているのに戦争がなくならないことは本当に残念です。全人類が想像力を働かせて、人の思いや気持ちを考えて、地球上から戦争が全くない世界になってほしいです。自分も自分の身近な所から平和を作る人になりたいです。